

【資料1－3】スマホサミットの取組

○「スマホサミット」の目的

- ・スマートフォンの所持率が高まる中学生を対象として、スマートフォン等のデジタルデバイス・メディアの利用について、生徒が自ら考え、取り組み、改善していくことができるようすることを目的とする。
- ・実践校で試験的実践を重ね、将来的には市内全校に広げ、取組知見を持ち寄り、共有を目指す。

1.湖東中学校での「スマホサミット」の取組みについて

■令和5年度～6年度の「スマホサミット」試験的実践

(1) 令和6年2月2日（金）15:20～16:30

- ・実践内容：市教委からの説明…スマホと利用時間、学力との関係について
生徒会・クラス委員によるワークショップ
- ・参加者：生徒会役員、1～3年クラス委員（計33人）
- ・ワークショップ
 - ① 「より良い時間を過ごすための具体的手立て」についてアイデア出し。
 - ② 学校の他の生徒に広げていく方法のアイデア出し。

(2) 令和6年4月30日（火）15:20～16:20

- ・実践内容：・市教委からの説明（前回の振り返り）
生徒会・クラス委員によるワークショップ
- ・参加者：生徒会執行部（各部長除く）、1年生～3年生のクラス委員（約25人）
- ・ワークショップ
 - ① 上記（1）①「具体的手立て」のアイデアから湖東中学校として取り組む内容（＝アクションプラン）の選び出し。
 - ② ①の「アクションプラン」について各クラスで「どのように実践し」「振り返り」「改善するか」を協議。

(3) 令和6年12月2日（月）13:45～14:35

- ・実践内容：各学級における学級活動
- ・題材名「メディアとの関わり方について～クラスで目標をたてよう」
- ・成果と今後

湖東中学校からこの取り組みについて下記の話を伺うことができた。

全学級が一斉に学級活動でメディアとの関わり方について考える時間をもったこと、そして「クラスのメディアの約束」づくりに取り組んだことは、生徒たちがメディア接触に関する課題について考えるきっかけとなった。また、学級活動の中で、他の人の思いを知ることができたこともよい機会となった。

今後、それぞれの学級でできた約束を、全校一人一人に共有できるように手立てを講じていく。そして、各学級で立てたメディアの約束を、今後学級委員の会でまとめ、湖東中の目標に繋げていくことを計画している。

そして、この取り組みが今回に限ったものではなく、来年度はさらに良いものとなるよう、継続的に取り組んでいきたいと考えている。

湖東中学校の取組から、生徒一人一人がメディア接触についての課題に、自分事として考え、改善策やルールを考えることができたことは大変意義があるようと思える。ルールが守れるか守れないかという課題も感じておられるが、継続的に自分のメディア接触の現状について向き合い、自分にできることは何かを自らに問いかける機会をもつことは大切なことだと考える。



2. 美保関中学校・美保関小学校合同の取組みについて

「美保関小学校・美保関中学校・美保関公民館共催 令和6年度人権教育小中一貫活動」へ講師として参加

(1) 令和6年11月26日(火) 13:30~15:00

①ねらい：インターネットのより良い使い方を学び、インターネットにかかわる様々な問題について考えるとともに、人権意識を高める。

テーマ：インターネットのより良い使い方と人権について

②参加者：美保関小学校6年生29名、美保関中学校1年生33名

③内 容：・文部科学省「情報モラル学習サイト」参照

- ・総務省「上手にネットと付き合おう」インターネットトラブル事例集2024版参照
- ・日本デジタル・シティズンシップ教育研究会編著

『はじめよう！デジタル・シティズンシップの授業』から「ハナコさんの物語」参照資料を提示しながら講演。

④課題： 本来スマホサミットが目的とする「生徒が自ら考え、取り組み、改善していくことができるようになる」ための場面設定が不十分であった。時間的なことに加え、マンパワーの不足など課題としてあげられる。グループワークには大人の関わりも必要だと考えて今回は取り入れなかったが、こどもたちの主体的な取り組みを生み出すにはグループワークは不可欠だと考える。

今後、協力してもらいえる人材の確保のためにも他機関や団体等と連携し進めることも必要かと考える。

3. 今後のスマホサミットの実施に向けて

湖東中学校での実践、美保関小中合同の取組のいずれも学校と打ち合わせを行い、児童生徒の実態に応じ内容を精査して取り組んだ。今回の取組を踏まえつつ、各学校にスマホサミットの意義等を伝え、少しでも多くの学校の理解を得ながら、こどもたちが主体的にメディアとのより良い関わり方ができるように取り組む学校を増やすことが必要と考える。

今後、様々な機関や団体と連携を図りながら、令和7年度はスマホサミットを活性化させるための手立てを見直し、推進を図りたい。